

車輪梅

<鹿島中学校 学校だより>

【令和2年2月号②】

感染症予防対策の徹底を！

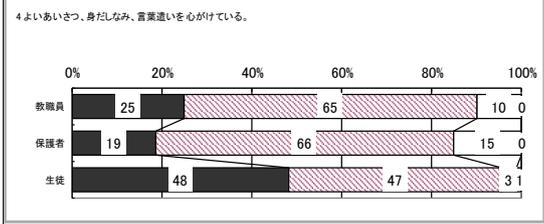
《重点目標》『自立した品格を目指し 今何をすべきかを考え 実行しよう』

前号に引き続き、学校評価アンケートの結果をお伝えします。

<心の教育と生徒指導の充実>

4 よいあいさつ、身だしなみ、言葉遣いを心がけている。

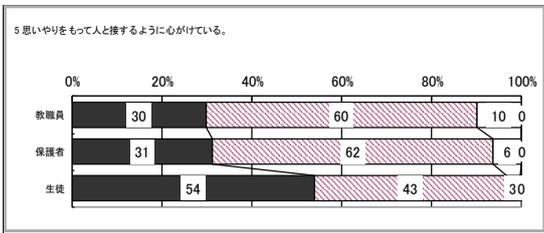
昨年度との比較では、保護者の評価の平均値が0.1ポイント下がった。生徒の評価が一番高く、自分ではできているという認識をもっているが、教職員から見ればもう少しできてほしい、家庭においては更にできてほしいという思いの表れと受け止められる。この質問項目に関連するものとして、生徒会が中心となって主体的に進めている「3つの習慣」（「あいさつをする習慣」、「下足をきれいに、きちんと並べる習慣」、「返事を、相手に分かるようにする習慣」）がある。生徒がこの「3つの習慣」に意識して取り組んでいる結果、生徒の値が上がったという肯定的な見方もできる。



《今後の取組》この項目で取り上げている基本的な生活習慣は、生きていく上での基盤となる重要な項目である。社会人として身に付けておくべき当たり前の内容であり、生徒の気持ちに根づいた「品格の向上」について、生徒自身が重要性を実感し、継続して自ら進んで取り組めるように支援・指導していく必要がある。

5 思いやりをもって人と接するように心がけている。

保護者の評価の平均値は2年連続で0.1ポイントの増加、教職員・生徒も昨年度より0.1ポイント増加しており、三者全て昨年度の結果を上回った。回答状況でのA評価の割合に焦点を当てると、教職員・保護者のA評価の割合30%・31%であるのに対し、生徒は54%と高い値であり、一番肯定的に評価している。理由としては、教職員・保護者が生徒への期待感が高すぎるため、厳しめの評価をしていることが原因とも考えられ、教職員・保護者の側が生徒の内面に目を向け、これまでよりも生徒の良さをしっかりと評価する必要があるのかもしれない。

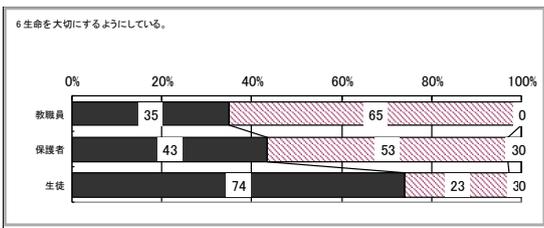


《今後の取組》今後も、いじめは絶対に許さないという指導とともに、思いやりをもって人と接することの大切さを説き、軽はずみな言動で相手の心を傷つけてしまうような場面があれば厳しく指導し、思いやりをもった言動が見られた場合には大いに褒め、生徒を正しく導いていけるようにしたい。

6 生命を大切にするようにしている。

全体の評価の平均値が3.5と高い値となった。昨年度と比較し、教職員の評価の平均値が0.2ポイント上がった。

回答状況でのA評価の割合に焦点を当てると、教職員、保護者、生徒となるにつれ、A評価の割合が35%（昨年度23%より大きく増加）、47%、70%と高い値となっている。これは、教職員が学校の指導場面だけでは、生徒の実態を把握するには情報不足であるという背景が、教職員のA評価の割合を低くしている結果と思われる。一方、教職員の結果が昨年度よりも大きく増加したのは、特別の教科道徳の時間にしっかりと道徳の授業を行い、命の大切さを学ぶ指導場面において、生徒の意識を実態把握する場面があったからと思われる。

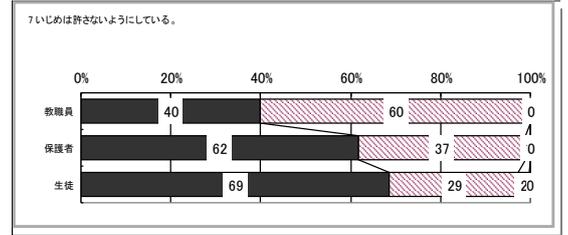


《今後の取組》命の大切さを考え、命を尊重する態度に関わるこの項目は、いじめの未然防止や、人権意識を高め、相手を尊重する態度の育成にも深くかかわってくる内容である。今後も、教材研究をして道徳の授業に臨むとともに、人権について考える機会を設け、指導を継続していきたい。

7 いじめは許さないようにしている。

全体の評価の平均値が3.6と高い値となった。昨年度との比較では、保護者は同じ値であるが、教職員、生徒ともに0.1ポイントずつ増加した。今年度も昨年度に引き続き、生徒が主体となった「いじめやめよう5つのプロジェクト」（「思いやりの心をもって行動しよう」、「みんな仲良く行動しよう」、「相手の気持ちを考えよう」、「悩んでいる人がいたら助けよう」、「トラブルを見過ごさず、自信をもって正しいことを言おう」）について推進してきた。また、生徒には毎月、保護者には隔月でいじめアンケートを実施し、いじめが疑われる回答に関しては、早期に教育相談を行い、早期発見・早期解決に努め、迅速かついじめを見逃さない指導を徹底してきた。

《今後の取組》今後もアンケートに加えて観察を行う。「いじめは絶対に許さない。」という雰囲気を高め、教師は「いじめられている生徒がいれば必ず守り通す。」、生徒は「何かあれば先生に伝える。」ようにするとともに、道徳の時間を充実させて心を育て、積極的な生徒指導を進めることで未然防止に努めていきたい。



8 楽しく学校生活を送っている。

全体の平均値が3.5と高い値となった。昨年度との比較では保護者は0.1ポイント下がったものの、教職員、生徒はそれぞれ0.2ポイント、0.1ポイントと増加した。生徒の回答状況からは約66%がA評価であり、B評価を加えると92%の生徒が楽しく学校生活を送っているという結果である。本校では今年度、新たな不登校生徒の出現は見られていない。2学期に入り、不登校に陥りそうになった生徒はいるが、学級担任、養護教諭を中心に毎日のように家庭訪問をしたり、電話で連絡をとっている。また、登校へのハードルが高い生徒については、生徒の実態に応じて、まずは学校に少しでもいることができれば大いに認め励ましたり、登校した際に教室に入ることが難しければ保健室や会議室を準備したり、また、級友が相談室に来て共に昼食をとることができるようにするなどの支援を行っている。

《今後の取組》今後も担任を中心に学年主任、養護教諭のサポート体制を継続しながら、生徒同士互いに認め、賞賛しあえる学級風土を作り、楽しく学校生活を送られるようにしていきたい。また、家庭と学校が連携し、生徒が楽しいと思える学校、保護者が安心して通学させられる学校をめざした学級経営、学校経営を継続して努めていく。

